

美香保中学校の生徒の皆さんへ

開校記念日に寄せて…『家庭や地域とともにある美香保中学校』

こんにちは。校長の伊達です。学校祭、お疲れ様でした。笑顔の華が咲く学校祭になったことをとても嬉しく思います。

さて、10月9日（木）は、本校の開校記念日です。本校は昭和24年4月15日に札幌市立第九中学校として開校し、その後、同年10月10日に「札幌市立美香保中学校」へと校名を変更しました。現在まで、美香保中学校は70年以上の長きにわたり、この地でその歴史を刻み続けています。校名「美香保」は、この地を開拓した3名の姓、宮村、柏野、大塚の頭文字「ミカオ」に由来します。これに「美しい文化の香りを永遠に保つ」という意味を込めて、「美香保」の文字が当てられました。この学校名が、いつしか地域の呼称も変えるほどになったという、全国的にも珍しい歴史をもっています。

本校は創立以来、地域の方々の温かい支えによって歩んできました。旧校舎・新校舎の建設時には、保護者やPTA、OB、地域住民の皆さんが一丸となって「校舎建設期成金」を募り、市長へ請願・陳情を重ね、校舎の早期建設を実現させたという記録が残されています。また、美香保中学校PTAのOB会である「**美中会**」も長年にわたり、本校の生徒たちの健全な成長と学校の活動を後援してくださっています。以前は、学校前の歩道橋の撤去や新しい歩道の設置を実現するなど、生徒たちの安全を確保するためにも尽力してくださいました。そして、今年度から新たに始まった「**みかほっ子応援団**」も、地域の方々が自身の知識や経験を生かして、皆さんの学びや成長を支えてくださっています。

本校が目指す学校像は、皆さんも知ってのとおり、『**ばらばらで一緒**』です。これは、一人一人違う存在であることを互いに認め合い、その個性を生かし合うことで、みんなが自由に自分らしくいられる学校をつくっていきこう、という思いが込められています。多様な考え方や個性をもつ仲間が集まって、互いの思いや願いを語り合い、一緒に考えることで、より豊かな学校生活を築くことができます。

そのために、私は皆さんに校長として伝えたいことがあります。それは、「**自分たちの思いや願いを届ける**」ことを大切にしてほしい、ということです。**10月6日（月）**には、その絶好の機会があります。それは、「**第2回みかほっ子サミット**」です。今日、生徒会役員の皆さんからも案内がありましたね。このサミットは、美香保小、北光小の児童、美香保中学校の生徒、そして地域の皆さん、教職員、保護者といった多様な大人たちが「ごちゃまぜ」になって対話する貴重な場です。今回のサミットでは、「笑顔の華が咲く挨拶」や「笑顔の華が咲く多様な人との交流」といったテーマで、グループごとに話し合います。

自分の思いや願いを言葉にして、異なる立場の人に伝える。そして、相手の声にも耳を傾けて、一緒に考える。この対話を通して、心と心がつながり、よりよい未来を創造する力を育んでほしいのです。

「ばらばらで一緒」は、生徒会活動や学級活動、部活動、異学年交流など、皆さんの**自治的な活動**によって形作られていきます。そして、皆さんの自治的な活動を後押ししてくれるのが、学校運営協議会、みかほっ子応援団、美中会、PTAといった、家庭や地域の温かい力なのです。

この開校記念日を機に、美香保中学校の歴史や、学校を支えてくださっている地域の方々、そして先生方や仲間たちの存在に思いを馳せてみてください。そして、ぜひ「第2回みかほっ子サミット」に参加し、自分たちの思いや願いを届けてみませんか。皆さんの積極的な参加を楽しみにしています。

美香保中学校 校長 伊達 峰史